

2012 年度 日本生活学会事業報告

(2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日)

I. 事業活動

- 第二回吉阪隆正賞シンポジウム「吉阪隆正賞とはなにか REVISIED」 2012 年 7 月 28 日 (土)
早稲田大学西早稲田キャンパス 参加者約 100 名
- 第 39 回総会・研究発表大会開催 (大阪) 2012 年 6 月 2 日(土)・3 日(日)
大阪大学中之島センター 参加者約 120 名
- 今和次郎賞 2011 受賞記念講演会 2012 年 10 月 27 日(土)
日比谷公園内「緑と水」の市民カレッジ 参加者約 60 名
- 三学会共同シンポジウム (日本民具学会 X 日本生活学会 X 道具学会) 2013 年 3 月 2 日(土)
神奈川大学横浜キャンパス 参加者約 70 名

II. 役員会開催

1. 理事会 5 回
2. 『生活学論叢』 vol. 21、22 編集委員会 6 回
3. 今和次郎賞 2012 選考委員会 1 回
4. 日本生活学会研究論文賞 2012 選考委員会 1 回

III. 出版物発行・メールニュース配信

- 2012 年 5 月 「第 39 回研究発表大会梗概集」 2012
- 2012 年 9 月 『生活学論叢』 vol. 21
- 2013 年 3 月 『生活学論叢』 vol. 22
- 日本生活学会メールニュースの配信 (No. 18～22)

IV. 委員会活動

1. 総務委員会

委員長 野村知子

- (1) 第39回総会の開催 2012年6月2-3日 於：大阪大学中之島センター
2012年度事業報告、同収支決算報告、2013年度事業計画案、同事業予算案作成
今和次郎賞授与(1件)、日本生活学研究論文賞は該当なし、名誉会員証授与(1名)
- (2) 大会 (公開シンポジウムならびに口頭発表、ポスターセッション) 開催
2012年6月2-3日 於：大阪大学中之島センター
- (3) 特別会計口座取り纏め
定期預金、普通預金合わせて8口座がある。このうち定期預金 (巢鴨信用金庫 1 口座、三井住友銀行の 2 口座) を解約、また、普通預金 (巢鴨信用金庫1口座と三井住友銀行2口座) を解約、更に、SMBC日興証券公社債投信 (200口) を解約し、新たに三井住友銀行とゆうちょ銀行へ定期預金と利息振込の普通預金口座を開設することとした。

2. 学術委員会

委員長 澁谷利雄

研究発表大会について日本生活学会第39回研究発表大会を、大阪大学中之島センターにおいて開催した。「食の安全・安心・信頼—相互理解を醸成するコミュニケーション」をテーマとし、30件の発表と2件の共同議論が行われた。

3. 『生活学論叢』編集委員会

委員長 塩月亮子

- (1) 論叢を年 2 回発行として、刊行を行った。
生活学論叢 第 21 号 2012 年 9 月発行
第 22 号 2013 年 3 月発行
生活学論叢第 21 号から学会記録を掲載することとなった。
- (2) 書評について以下の内規を定めた。
「書評」は、日本生活学会の賞を受賞した著書のみを対象とする。また、評者は編集委員会が適任者を選出し、編集委員長名で依頼する。(現編集委員会ではこれを 2012 年 7 月 2 日より始めた。)

- (3) シンポジウム報告等論叢への執筆について以下の内規を定めた。

生活学編集委員会では、大会公開シンポジウム、その他シンポジウム等について生活学論叢へ報告寄稿頂く際、以下の通りと考えこれを内規とすることを検討し理事会で承認を得た。

①シンポジウム報告の作成は、講演者（および話題提供されたファシリテーター）が報告責任者として行う。共同議論報告の作成は、話題提供者が報告責任者として行う。

②上記報告の執筆は、報告責任者の自筆でも、他者への依頼でもかまわない。他者へ依頼する場合、執筆者の指名と原稿の監修は、報告責任者によって行われる。

③書式（引用、参考文献等）は、基本的には、本学会学会誌執筆要綱に準じる。

※なお、当報告は（書記記録のようなものではなく）相応の学術的価値をもつものとして、報告責任者が責任を負うものとする。

4. 事業委員会

委員長 中谷礼仁

- (1) 今和次郎賞 2012 の記念講演会を開催した。

東京都公園協会との共催事業として、日比谷公園内の「水と緑」の市民カレッジにて、受賞者である進士五十八氏の記念講演、その後に進士氏のガイドによる日比谷公園の散策と懇親会を行った。天気にも恵まれ、学会外からの一般参加者も含む 60 名の参加者があり、公園の散策を楽しんだ。

- (2) 第二回吉阪隆正賞の実質的運営

2012 年 7 月 27 日に第二回吉阪隆正賞・準備シンポジウム『吉阪隆正賞とは何か REVISÉD』を開催し、第一回吉阪隆正賞のレビューと第二回吉阪隆正賞の選考方針について確認した。公募締め切り後、11 月 29 日に第一次審査を行い、候補者を 3 名に絞った。2013 年 1 月～2 月にかけて審査員による候補業績の現地調査を行なったうえで 2 月 20 日に第二次審査を行い、選考委員会としての受賞候補者を決定し、4 月 13 日に理事会にて報告、承認された。

- (3) 初の試みとして、道具学会、日本民具学会との三学会共同シンポジウムを神奈川大学にて開催した。

各学会員を中心に 67 名の参加があり、懇親会にも 40 名の参加があった。シンポジウムでは、対象領域が補完的に重なり合う各学会が議論・研究を行う有効性が確認され、今後の共同活動への可能性が感じられるイベントであった。

5. 情報委員会

委員長 佐藤宏亮

- (1) 学会ホームページサーバー管理

- (2) 生活学会メールニュース (No. 18～22) の配信

6. 生活学ヘリテージ・プロジェクト

代表 小林多寿子

- (1) 2012 年 9 月 29 日、日本生活学会が設立 40 周年を迎えたのを記念して生活学が構築された当時の状況や今和次郎先生の思い出などを生活学会の名誉会員等に語っていただき記録に留めるプロジェクトを立ち上げた。本プロジェクトは、生活学会に長年寄与された名誉会員や設立当時に貢献された方へのインタビューを学会の財産として記録に残すためのプロジェクトであり、1 年半という限定的な期間で活動を行う予定である。

- (2) 2012 年度は 3 名の名誉会員にお話を伺った。

V. 研究会活動

1. 生活情報化研究会

代表者 佐藤佳弘

4 回の研究会を開催した。講師の所属・役職は、研究会開催時のもの。

■ 第 58 回

1. 日 時 : 2012 年 6 月 13 日 (水) 10:30-12:00
2. 報 告 : 「ネット時代の新聞メディア～新聞は生き残れるか？」
3. 講 師 : 吉田 典之 読売新聞東京本社 メディア戦略局 記者
4. 場 所 : 大阪経済法科大学 東京麻布台セミナーハウス 4 F 中研修室
5. 参 加 : 27 人

■ 第 59 回

1. 日 時 : 2012 年 7 月 18 日 (水) 10:30-12:00

2. 報 告 : 「スマートフォンで変わる通販、そして生活」
3. 講 師 : 村山 らむね 通販評論家 有限会社スタイルビズ 代表
4. 場 所 : 大阪経済法科大学 東京麻布台セミナーハウス 4 F 中研修室
5. 参 加 : 28 人

■ 第 60 回

1. 日 時 : 2012 年 9 月 4 日 (火) 10:30-12:00
2. 報 告 : 「今からこうなるネット通販～どうしてスマホで買っちゃうの？」
3. 講 師 : 横田 伊佐男 CRM ダイレクト (株) 代表取締役
4. 場 所 : 大阪経済法科大学 東京麻布台セミナーハウス 4 F 中研修室
5. 参 加 : 29 人

■ 第 61 回

1. 日 時 : 2013 年 3 月 5 日 (火) 10:30-12:00
2. 報 告 : 「楽天市場が消費を変える～ネットで売れないモノはない～」
3. 講 師 : 仲山 進也 楽天 (株) 楽天大学学長
4. 場 所 : 大阪経済法科大学 東京麻布台セミナーハウス 4 F 中研修室
5. 参 加 : 27 人

2. 国土開発史の研究会

代表者 真島俊一

- (1) 民博「今和次郎展」(2012 年 4 月 26 日～6 月 19 日開催) 展示協力
40 余年前に行った 4 棟の民家模型の出来るまでの、建物と道具の悉皆調査の資料から展示パネルにした。
- (2) シンポ形式となった研究テーマ(仮): 「伝統的な住いと近代の住い—道具から見る生活の変容過程について—」
 - 参加者: 生活学会会員、国土開発史研究会会員、地域工務店の皆さん
 - 発表方式: 8 回ほどの連続報告と報告書、中締めとして公開研究会を検討中
 - 内 容: *デザインサーベイの始まりと終焉、家業の時代の暮らしと道具
 - *今和次郎が始めた絵で考える生活学-大正、昭和初期のころ
 - *サラリーマンの時代の暮らしと道具、衣食住の工業化
 - *家電製品のある間取りが近代的か? など
 - 開催時期: 平成24年7回実施済み
- (3) 道具の名称と分類の研究 (あと 2 年ほど継続予定)
全国各地の地域の生業と生活の民具の検証など行った。

以 上

